

別記様式第2号 別添

浜の活力再生プラン (第2期)

1 地域水産業再生委員会 ID1122012

組織名	兵庫県地域水産業再生委員会 林崎部会
代表者名	部会長 田沼 政男

再生委員会の構成員	林崎漁業協同組合、明石市、兵庫県東播磨県民局加古川農林水産振興事務所
オブザーバー	兵庫県漁業協同組合連合会

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	兵庫県明石市林崎地域 漁業者計248名 (ノリ養殖漁業178名、船曳き網漁業121名、小型底曳網漁業68名、たこつぼ漁業20名、一本釣り漁業24名ほか兼業含む)
-------------------	---

2 地域の現状

(1) 関連する水産業を取り巻く現状等

<p>本地域は、兵庫県南東部の東播磨地域に位置し、古くから源氏物語の舞台として登場する明石を代表する歴史のある漁業のまちである。地先の播磨灘には、明石海峡の激しい潮流によって、「鹿ノ瀬」と呼ばれる広大な浅瀬が広がり、日本有数の豊かな漁場を形成している。これらの豊かな漁場の恩恵を受け、四季折々に様々な魚介類が水揚げされる瀬戸内海でも有数の生産を誇る林崎漁港があり、昭和26年漁港指定を受けている。また、大阪、神戸が商圏内にあり、生産地と大消費地が近くにあることも一つの特徴である。</p> <p>漁業種別としては、漁船漁業とノリ養殖業が主となる。漁船漁業では、船曳き網漁業が中心で、平成29年度(5月～翌4月)はイカナゴとチリメンを合わせて合計765トン、約3.4億円の水揚げがあり、漁船漁業全体の水揚げ量のうち85%を占めている。水揚げされる魚介類の流通については、本地域では漁協が産地市場を開設し、全量共販を基本としている。魚介類の単価の推移をみると、ほとんどの魚種で下落傾向がみられ、漁獲量の減少と相まって生産金額の減少に歯止めがかからない状態である。全国的な魚離れからの消費の減退、量販店主導による価格設定、産地仲買人の取扱量の減少など、様々な要因によって産地における魚価の低落を加速化させている。さらに、消費者が魚の名前も分からない、食べ方も知らない等、魚食文化自体の劣化といった実態も浮かび上がっているために、需要競争による魚価向上は見込めそうにない。</p> <p>また、ノリ養殖業が盛んで、県内でも屈指の生産地であり、生産枚数、生産金額ともに県内1位となっている。当地域で生産されるノリは「明石のり」として流通するものもあるが、その多くは業務用として流通しているため、市場での「明石のり」としての認知度はそれほど高くなく、業務用が主体となる単価で取引されることが多い。また、近年海域の栄養塩不足による色落ち被害は少なくなったとはいえ、海況の変化に関する不安や、生産するノリ品質や生産枚数が不安定な状況に変わりはなく、他産地の生産状況やそれにともなった相場などの外部要因の影響を受けることでノリ品質向上と価格上昇が比例しにくい現象が起こっている。そこで、単価が抑えられる傾向にある業務用が主体のノリづくりではなく、消費者から指名を受けられるような特質をもつノリづくりが求められている。</p> <p>さらに、漁船漁業、ノリ養殖業ともに経営面では、ここ最近の漁業用資材及び燃料価格が高騰し、高止まりの状況による漁業経費の増加のため、収益が減少傾向にある。漁況や海況の変化を受けやす</p>
--

く、労働条件にも恵まれない環境の中で設備の近代化などの工夫をしながら経営安定化を目指すものの、その実現が難しい状況もあって、漁業者の高齢化や新規就労者の減少により後継者不足が進行している。後継者不足から組合員数の減少が深刻な状況であった一方で、新規就業者支援事業の育成等により若者 10 名が新規加入した。

(2) その他の関連する現状等

- ・漁港の老朽化が進むこととあわせて、地震、津波、高潮等の災害対策が進んでいない。
- ・地域資源が活かされず、にぎわいに繋がっていない。

3 活性化の取組方針

(1) 前期の浜の活力再生プランにかかる成果及び課題等

Blank area for reporting results and issues related to the previous beach vitality regeneration plan.

(2) 今期の浜の活力再生プランの基本方針

前期の主要漁業であるノリ養殖業の基盤強化及び販路拡大の取組や、環境・生態系の保全と漁場の管理への取組の成果を踏まえ、さらなるノリ養殖業の発展、魚価向上に向けた取組や、漁場環境の保全や資源量増大に向けた取組を強化するため、今期は以下の方針で取り組む。

○ノリ生産量及び生産額の増大

- ・ノリ養殖業者協業体は、ノリ生産枚数の増大と、品質の向上を図るため、大型ノリ自動乾燥機導入に努める。
- ・「明石のりまつり」等に積極的に参加するとともに、明石ノリの統一ロゴやポスターを活用したPR活動を行い、消費拡大を図る。

○魚価の向上

- ・明石産の漁獲物の品質向上・品質管理に努める。
- ・「林とれとれ祭り」を開催し、水産物の消費拡大を推進。

○漁場環境の保全と資源量の増大

- ・全漁業者で漁場環境の保全にかかる活動を推進。
- ・大規模な魚礁設置と合わせ種苗放流を行い、資源量の増大に努める。

○魚食文化の普及啓発

- ・明石市と連携し、近隣の学校に水産物の提供及び出前授業の実施を行うことで魚食普及に努める。
- ・地元の特産品周知のため初積みのノリを加工した焼きのりを、地元幼稚園に提供し魚食普及に努める。

○意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保

- ・全漁業者が様々な分野の研修に参加し、自己研鑽に努める。
- ・漁業研修を行うことにより新規漁業就業者の確保を図る。

○燃油の急騰に対する備え

- ・漁業経営セーフティネット構築事業へ加入を推進し、燃油の急騰に備える。

○省燃油活動の推進

- ・全漁業者は減速航行の徹底など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。

○省エネ機器の導入

- ・漁業者は競争力強化型機器等導入緊急対策事業を活用し、省エネ機器の導入による燃油消費及び修繕コストの削減を図る。

○漁船リース事業の活用

- ・漁業者は水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業を活用して、古い漁船と入替に新たな漁船

を導入することで所得向上を目指す。

○漁港の耐震化

・明石市が実施する林崎漁港の耐震化工事に協力し、漁業用施設等の保全を図る。

○漁港内の安全性確保

・明石市が実施する漁港内の浚渫に協力し、漁船航行等の安全性を確保する。

(3) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁獲努力量の削減等については、資源管理計画（漁獲物の体長制限、操業時間及び期間の制限、休漁等）を確実に履行している。また、ノリ養殖については兵庫県のり養殖漁場改善計画に基づく生産対策等を遵守している。

現在取り組んでいる資源管理計画は「兵庫県のり養殖漁場改善計画」「兵庫県林崎漁業協同組合船びき網漁業資源管理計画」「兵庫県林崎漁業協同組合小型底びき網漁業資源管理計画」「兵庫県林崎漁業協同組合東部地区たこつぼ漁業資源管理計画」。

(4) 具体的な取組内容（毎年ごとに数値目標とともに記載）

1年目（平成31年度（2019年度））「所得2%向上」

漁業収入向上のための取組	<p>① ノリ生産量及び生産額の増大</p> <ul style="list-style-type: none">・ノリ養殖業者協業体は、ノリ生産枚数の増大（色のある内により多くのノリを生産する等）と、品質の向上（品質の安定化、異物混入等によるロス率の低減）を図るため、大型ノリ自動乾燥機の導入を検討する。・漁協は、ノリ養殖業者とともに、消費者に美味しさを伝える観点から、やわらかな新芽を初摘みした海苔（養殖ノリは通常10回程度摘採を行うが、摘採回数を重ねるほどノリは硬くなっていくことから、一番初めに摘んだ初摘みノリはお茶で言うとお茶にあたり珍重される）にこだわり、高温で焼くことでさっくりと歯切れ良く加工し、販売する。また、1月に開催される「明石のりまつり」等にも積極的に参加するとともに、明石ノリの統一ロゴやポスターを活用し、消費者に対して「明石のり」の美味しさをPRし、消費拡大を図る。 <p>② 魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none">・漁船漁業者は、明石産の漁獲物の品質向上に向け、水揚げした魚介類の素早い選別やカゴにスポンジを敷き、魚体を傷つけないようするなど丁寧に取扱うことを全員で徹底して行い、マダイ、マダコなどの価格の向上を図る。また、鮮魚で流通させるものについては活け締めや神経抜き等の処置を施し、更なる品質の向上を図る。・マダコについて、蛸つぼ漁業者20名は、足切れ等が起こらないように同じ生け簀に大量のタコを入れない、又はネットでタコを隔離する等の手を加えることで品質管理に努める。・イカナゴ、ちりめんについて、船曳漁業者121名は、品質が落ちないように、魚槽へ氷を混ぜてカゴに移す前から冷やし、鮮度保持に努める。・漁協は漁業者、明石市水産加工業組合、農会、連合町内会等と連携し、「林とれとれ祭り」を開催し、イカナゴ、新海苔、サンマ・アジの開き、ゆでだこ、ちりめんなどの販売を行い、水産物の消費拡大を推進する。 <p>③ 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <ul style="list-style-type: none">・全漁業者で海底耕耘、ため池のかいぼり等、漁場環境の保全にかかる活動を推進する。特に、農業者等と連携して行うため池のかいぼりは、ため池底の泥が豊富な栄養塩を含み、ノリ育成に有効と考えられることから、ノリ養殖の漁期に合わせて行う。・漁業者は、マダコ資源の保護のため、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコ
--------------	---

	<p>つぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。また、マダコの産卵時期に合わせて産卵用タコツボを漁場に投入し、資源量の増加に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模な魚礁設置と合わせて種苗放流（マダイ、ヒラメ、キジハタ等）を行い、資源量の増大に努める。 <p>④ 魚食文化の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協、漁業者は明石市と連携し、半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するとともに、地域のイベントに合わせてタコ漁業等についての出前授業を行う。 ・地元の特産品を知ってもらうために、漁協は初摘みのノリを加工した焼きのりを、地元幼稚園に提供し魚食普及に努める。 <p>⑤ 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は計画的な漁業経営を行うことができる意欲ある漁業者となるため、様々な分野の研修に参加し、自己研鑽に努める。 ・漁協は、漁業研修を行うことにより新規漁業就業者の確保を図る。
漁業コスト削減のための取組	<p>① 燃油の急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は漁業経営セーフティネット構築事業へ加入を推進し、燃油の急騰に備える。 <p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は減速航行の徹底、係留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。 <p>③ 省エネ機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は競争力強化型機器等導入緊急対策事業を活用し、省エネ機器の導入による燃油消費量及び修繕コストの削減を図るとともに、漁協は省エネ機器への換装を推進する。 <p>④ 漁船リース事業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業を活用して、古い漁船と入替に新たな漁船を取得し、修繕費、メンテナンス代の削減を図る。漁協は事業の活用を推進する。 <p>⑤ 漁港の耐震化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明石市が林崎漁港の耐震化工事を継続、漁業用施設や漁船・漁具等漁家資産の保全を図る。 <p>⑥ 漁港内の安全性確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明石市は漁港内を浚渫することで、泊地の計画水深を維持し、漁船航行、係留、船揚げ時の安全性を確保する。
活用する支援措置等	競争力強化型機器等導入緊急対策事業、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業、水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業、水産物供給基盤整備事業、水産業強化支援事業、漁港施設機能強化事業、維持浚渫

2年目（平成32年度（2020年度））「所得4%向上」

漁業収入向上のための取組	<p>① ノリ生産量及び生産額の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリ養殖業者協業体は、ノリ生産枚数の増大（色のある内により多くのノリを生産する等）と、品質の向上（品質の安定化、異物混入等によるロス率の低減）を図るため、大型ノリ自動乾燥機を導入する。 ・漁協は、ノリ養殖業者とともに、やわらかな「初摘み海苔」にこだわり、高温で焼くことでさっくりと歯切れ良く加工し、販売する。また、1月に開催される「明石のりまつり」等にも積極的に参加するとともに、明石ノリの統一ロゴやポスターを活用し、消費者に対して「明石のり」の美味しさをPRし、消費拡大を図る。 <p>② 魚価の向上</p>
--------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・漁船漁業者は、明石産の漁獲物の品質向上に向け、水揚げした魚介類の素早い選別やカゴにスポンジを敷き、魚体を傷つけないようするなど丁寧に取扱うことを全員で徹底して行い、マダイ、マダコなどの価格の向上を図る。また、鮮魚で流通させるものについては活け締めや神経抜き等の処置を施し、更なる品質の向上を図る。 ・マダコについて、蛸つぼ漁業者 20 名は、足切れ等が起こらないように同じ生け簀に大量のタコを入れない、又はネットでタコを隔離する等の手を加えることで品質管理に努める。 ・イカナゴ、ちりめんについて、船曳漁業者 121 名は、品質が落ちないように、魚槽へ氷を混ぜてカゴに移す前から冷やし、鮮度保持に努める。 ・漁協は漁業者、明石市水産加工業組合、農会、連合町内会等と連携し、「林とれとれ祭り」を開催し、イカナゴ、新海苔、サンマ・アジの開き、ゆでだこ、ちりめんなどの販売を行い、水産物の消費拡大を推進する。 <p>③ 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者で海底耕耘、ため池のかいぼり等、漁場環境の保全にかかる活動を推進する。特に、農業者等と連携して行うため池のかいぼりは、ため池底の泥が豊富な栄養塩を含み、ノリ育成に有効と考えられることから、ノリ養殖の漁期に合わせて行う。 ・漁業者は、マダコ資源の保護のため、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコつぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。また、マダコの産卵時期に合わせて産卵用タコツボを漁場に投入し、資源量の増加に努める。 ・大規模な魚礁設置と合わせて種苗放流（マダイ、ヒラメ、キジハタ等）を行い、資源量の増大に努める。 <p>④ 魚食文化の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協、漁業者は明石市と連携し、半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するとともに、地域のイベントに合わせてタコ漁業等についての出前授業を行う。 ・地元の特産品を知ってもらうために、漁協は初摘みのノリを加工した焼きのりを、地元幼稚園に提供し魚食普及に努める。 <p>⑤ 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は計画的な漁業経営を行うことができる意欲ある漁業者となるため、様々な分野の研修に参加し、自己研鑽に努める。 ・漁協は、漁業研修を行うことにより新規漁業就業者の確保を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 燃油の急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は漁業経営セーフティネット構築事業へ加入を推進し、燃油の急騰に備える。 <p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は減速航行の徹底、係留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。 <p>③ 省エネ機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は競争力強化型機器等導入緊急対策事業を活用し、省エネ機器の導入による燃油消費量及び修繕コストの削減を図るとともに、漁協は省エネ機器への換装を推進する。 <p>④ 漁船リース事業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は水産競争力強化漁船導入緊急支援事業を活用して、古い漁船と入替に新たな漁船を取得し、修繕費、メンテナンス代の削減を図る。漁協は事業の活用を推進する。
<p>活用する支援措置等</p>	<p>競争力強化型機器等導入緊急対策事業、水産競争力強化漁船導入緊急支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業、水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業、水産物供給基盤整備事業、水産競争力強化支援事業</p>

3年目（平成33年度（2021年度））「所得6%向上」

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>① ノリ生産量及び生産額の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリ養殖業者協業体は、ノリ生産枚数の増大（色のある内により多くのノリを生産する等）と、品質の向上（品質の安定化、異物混入等によるロス率の低減）を図るため、大型ノリ自動乾燥機を導入する。 ・漁協は、ノリ養殖業者とともに、やわらかな「初摘み海苔」にこだわり、高温で焼くことでさっくりと歯切れ良く加工し、販売する。また、1月に開催される「明石のりまつり」等にも積極的に参加するとともに、明石ノリの統一ロゴやポスターを活用し、消費者に対して「明石のり」の美味しさをPRし、消費拡大を図る。 <p>② 魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船漁業者は、明石産の漁獲物の品質向上に向け、水揚げした魚介類の素早い選別やカゴにスポンジを敷き、魚体を傷つけないようするなど丁寧に取扱うことを全員で徹底して行い、マダイ、マダコなどの価格の向上を図る。また、鮮魚で流通させるものについては活け締めや神経抜き等の処置を施し、更なる品質の向上を図る。 ・マダコについて、蛸つぼ漁業者20名は、足切れ等が起こらないように同じ生け簀に大量のタコを入れない、又はネットでタコを隔離する等の手を加えることで品質管理に努める。 ・イカナゴ、ちりめんについて、船曳漁業者121名は、品質が落ちないように、魚槽へ氷を混ぜてカゴに移す前から冷やし、鮮度保持に努める。 ・漁協は漁業者、明石市水産加工業組合、農会、連合町内会等と連携し、「林とれとれ祭り」を開催し、イカナゴ、新海苔、サンマ・アジの開き、ゆでだこ、ちりめんなどの販売を行い、水産物の消費拡大を推進する。 <p>③ 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者で海底耕耘、ため池のかいぼり等、漁場環境の保全にかかる活動を推進する。特に、農業者等と連携して行うため池のかいぼりは、ため池底の泥が豊富な栄養塩を含み、ノリ育成に有効と考えられることから、ノリ養殖の漁期に合わせて行う。 ・漁業者は、マダコ資源の保護のため、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコつぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。また、マダコの産卵時期に合わせて産卵用タコつぼを漁場に投入し、資源量の増加に努める。 ・大規模な魚礁設置と合わせて種苗放流（マダイ、ヒラメ、キジハタ等）を行い、資源量の増大に努める。 <p>④ 魚食文化の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協、漁業者は明石市と連携し、半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するとともに、地域のイベントに合わせてタコ漁業等についての出前授業を行う。 ・地元の特産品を知ってもらうために、漁協は初摘みのノリを加工した焼きのりを、地元幼稚園に提供し魚食普及に努める。 <p>⑤ 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は計画的な漁業経営を行うことができる意欲ある漁業者となるため、様々な分野の研修に参加し、自己研鑽に努める。 ・漁協は、漁業研修を行うことにより新規漁業就業者の確保を図る。
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<p>① 燃油の急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は漁業経営セーフティネット構築事業へ加入を推進し、燃油の急騰に備える。 <p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は減速航行の徹底、係留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。 <p>③ 省エネ機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は競争力強化型機器等導入緊急対策事業を活用し、省エネ機器の導入に

	<p>よる燃油消費量及び修繕コストの削減を図るとともに、漁協は省エネ機器への換装を推進する。</p> <p>④ 漁船リース事業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業を活用して、古い漁船と入替に新たな漁船を取得し、修繕費、メンテナンス代の削減を図る。漁協は事業の活用を推進する。
活用する支援措置等	競争力強化型機器等導入緊急対策事業、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業、水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業、水産物供給基盤整備事業、水産業強化支援事業

4年目（平成34年度（2022年度））「所得8%向上」

漁業収入向上のための取組	<p>① ノリ生産量及び生産額の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリ養殖業者協業体は、ノリ生産枚数の増大（色のある内により多くのノリを生産する等）と、品質の向上（品質の安定化、異物混入等によるロス率の低減）を図るため、大型ノリ自動乾燥機の導入を検討する。 ・漁協は、ノリ養殖業者とともに、やわらかな「初摘み海苔」にこだわり、高温で焼くことでさっくりと歯切れ良く加工し、販売する。また、1月に開催される「明石のりまつり」等にも積極的に参加するとともに、明石ノリの統一ロゴやポスターを活用し、消費者に対して「明石のり」の美味しさをPRし、消費拡大を図る。 <p>② 魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船漁業者は、明石産の漁獲物の品質向上に向け、水揚げした魚介類の素早い選別やカゴにスポンジを敷き、魚体を傷つけないようするなど丁寧に取扱うことを全員で徹底して行い、マダイ、マダコなどの価格の向上を図る。また、鮮魚で流通させるものについては活け締めや神経抜き等の処置を施し、更なる品質の向上を図る。 ・マダコについて、蛸つぼ漁業者20名は、足切れ等が起こらないように同じ生け簀に大量のタコを入れない、又はネットでタコを隔離する等の手を加えることで品質管理に努める。 ・イカナゴ、ちりめんについて、船曳漁業者121名は、品質が落ちないように、魚槽へ水を混ぜてカゴに移す前から冷やし、鮮度保持に努める。 ・漁協は漁業者、明石市水産加工業組合、農会、連合町内会等と連携し、「林とれとれ祭り」を開催し、イカナゴ、新海苔、サンマ・アジの開き、ゆでだこ、ちりめんなどの販売を行い、水産物の消費拡大を推進する。 <p>③ 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者で海底耕耘、ため池のかいぼり等、漁場環境の保全にかかる活動を推進する。特に、農業者等と連携して行うため池のかいぼりは、ため池底の泥が豊富な栄養塩を含み、ノリ育成に有効と考えられることから、ノリ養殖の漁期に合わせて行う。 ・漁業者は、マダコ資源の保護のため、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコつぼを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。また、マダコの産卵時期に合わせて産卵用タコツボを漁場に投入し、資源量の増加に努める。 ・種苗放流（マダイ、ヒラメ、キジハタ等）を行い、資源量の増大に努める。 <p>④ 魚食文化の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協、漁業者は明石市と連携し、半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するとともに、地域のイベントに合わせてタコ漁業等についての出前授業を行う。 ・地元の特産品を知ってもらうために、漁協は初摘みのノリを加工した焼きのりを、地元幼稚園に提供し魚食普及に努める。 <p>⑤ 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は計画的な漁業経営を行うことができる意欲ある漁業者となるため、様々
--------------	---

	<p>な分野の研修に参加し、自己研鑽に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は、漁業研修を行うことにより新規漁業就業者の確保を図る。
漁業コスト削減のための取組	<p>① 燃油の急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は漁業経営セーフティネット構築事業へ加入を推進し、燃油の急騰に備える。 <p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は減速航行の徹底、係留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。 <p>③ 省エネ機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は競争力強化型機器等導入緊急対策事業を活用し、省エネ機器の導入による燃油消費量及び修繕コストの削減を図るとともに、漁協は省エネ機器への換装を推進する。 <p>④ 漁船リース事業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業を活用して、古い漁船と入替に新たな漁船を取得し、修繕費、メンテナンス代の削減を図る。漁協は事業の活用を推進する。
活用する支援措置等	競争力強化型機器等導入緊急対策事業、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業、水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業、水産物供給基盤整備事業、水産業強化支援事業

5年目（平成35年度（2023年度））「所得10%向上」

漁業収入向上のための取組	<p>① ノリ生産量及び生産額の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノリ養殖業者協業体は、ノリ生産枚数の増大（色のある内により多くのノリを生産する等）と、品質の向上（品質の安定化、異物混入等によるロス率の低減）を図るため、大型ノリ自動乾燥機の導入を検討する。 ・漁協は、ノリ養殖業者とともに、やわらかな「初摘み海苔」にこだわり、高温で焼くことでさっくりと歯切れ良く加工し、販売する。また、1月に開催される「明石のりまつり」等にも積極的に参加するとともに、明石ノリの統一ロゴやポスターを活用し、消費者に対して明石ノリの美味しさをPRし、消費拡大を図る。 <p>② 魚価の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁船漁業者は、明石産の漁獲物の品質向上に向け、水揚げした魚介類の素早い選別やカゴにスポンジを敷き、魚体を傷つけないようするなど丁寧に取扱うことを全員で徹底して行い、マダイ、マダコなどの価格の向上を図る。また、鮮魚で流通させるものについては活け締めや神経抜き等の処置を施し、更なる品質の向上を図る。 ・マダコについて、蛸つぼ漁業者20名は、足切れ等が起こらないように同じ生け簀に大量のタコを入れず、又はネットでタコを隔離する等の手を加えることで品質管理に努める。 ・イカナゴ、ちりめんについて、船曳漁業者121名は、品質が落ちないように、魚槽へ氷を混ぜてカゴに移す前から冷やし、鮮度保持に努める。 ・漁協は漁業者、明石市水産加工業組合、農会、連合町内会等と連携し、「林とれとれ祭り」を開催し、イカナゴ、新海苔、サンマ・アジの開き、ゆでだこ、ちりめんなどの販売を行い、水産物の消費拡大を推進する。 <p>③ 漁場環境の保全と資源量の増大</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者で海底耕耘、ため池のかいぼり等、漁場環境の保全にかかる活動を推進する。特に、農業者等と連携して行うため池のかいぼりは、ため池底の泥が豊富な栄養塩を含み、ノリ育成に有効と考えられることから、ノリ養殖の漁期に合わせて行う。 ・漁業者は、マダコ資源の保護のため、抱卵している「子持ちダコ」が入ったタコ
--------------	--

	<p>つばを母ダコごと海に戻す「子持ちダコ再放流事業」に取り組む。また、マダコの産卵時期に合わせて産卵用タコツボを漁場に投入し、資源量の増加に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種苗放流（マダイ、ヒラメ、キジハタ等）を行い、資源量の増大に努める。 <p>④ 魚食文化の普及啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協、漁業者は明石市と連携し、半夏生の日（雑節の一つ）にタコを食べる風習を広く知ってもらうため、学校給食用に明石ダコを提供するとともに、地域のイベントに合わせてタコ漁業等についての出前授業を行う。 ・地元の特産品を知ってもらうために、漁協は初摘みのノリを加工した焼きのりを、地元幼稚園に提供し魚食普及に努める。 <p>⑤ 意欲ある漁業者の育成と新規就業者の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は計画的な漁業経営を行うことができる意欲ある漁業者となるため、様々な分野の研修に参加し、自己研鑽に努める。 ・漁協は、漁業研修を行うことにより新規漁業就業者の確保を図る。
漁業コスト削減のための取組	<p>① 燃油の急騰に対する備え</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁協は漁業経営セーフティネット構築事業へ加入を推進し、燃油の急騰に備える。 <p>② 省燃油活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全漁業者は減速航行の徹底、係留中の機関の停止、不要不急な積載物の削減による船体の軽量化、定期的な船底清掃による航行時の抵抗削減など、省燃油に繋がる活動を実施し、燃油消費量を抑制する。 <p>③ 省エネ機器の導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は競争力強化型機器等導入緊急対策事業を活用し、省エネ機器の導入による燃油消費量及び修繕コストの削減を図るとともに、漁協は省エネ機器への換装を推進する。 <p>④ 漁船リース事業の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁業者は水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業を活用して、古い漁船と入替に新たな漁船を取得し、修繕費、メンテナンス代の削減を図る。漁協は事業の活用を推進する。
活用する支援措置等	競争力強化型機器等導入緊急対策事業、水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業、漁業経営セーフティネット構築等事業、水産多面的機能発揮対策事業、漁業人材育成総合支援事業、水産物供給基盤整備事業、水産業強化支援事業

（５）関係機関との連携

取組の効果が十分に発現されるよう、行政（兵庫県、明石市）、系統団体（兵庫県漁業協同組合連合会、兵庫県漁業共済組合等）、地域団体（明石市漁業組合連合会）との連携を強固にするとともに、県内外の流通・販売業者、飲食店等についても新たな連携を図る。

また、根拠地漁港における水産基盤整備事業及び海岸保全施設整備事業の計画策定及び事業実施に協力し、当該漁港の維持管理を推進することをもって漁家資産及び背後地住民の生命・財産を守る事に協力する。

更に、新規就業者の許可取得が優先的に行われるなど、新規就業者の経営安定のために関係機関が協力する。

4 目標

（１）所得目標

漁業所得の向上10%以上	基準年	平成30年度（2018年度）：
	目標年	平成35年度（2023年度）：

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>・基準年の漁業所得については、各漁業種類より中核的な漁業経営を行っている各漁業種別に平均的な漁業者5名をモデルケースとして抽出し、平成25年～平成29年の平均所得率を算出し、全漁業者の所得を推計した。</p> <p>この推計方法により、年変動が大きい漁業所得において、各年の変動を平準化し、目標年である平成35年の漁業所得との比較が容易になることから妥当であると判断した。</p>

(3) 所得目標以外の成果目標

マダコの水揚げ量向上 10%以上	基準年	平成30年度（2018年度）： (単位) 151 t
	目標年	平成35年度（2023年度）： (単位) 166 t

(4) 上記の算出方法及びその妥当性

<p>・基準年の水揚げ量については、資源管理内容シートの将来予測データの採用値を基準とした。</p> <p>この推計方法により、年変動が大きい水揚げ量において、各年の変動を平準化し、目標年である平成35年の水揚げ量との比較が容易になることから妥当であると判断した。</p>
--

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
競争力強化型機器等導入緊急対策事業	省エネ機関を導入することにより、漁業支出の低減を図り、漁業所得を確保する。
水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	船齢の古い漁船と入替に新船を導入することで、漁業支出の低減を図り、漁業所得を確保する。
漁業経営セーフティネット構築等事業	燃油高騰による漁業経費の増加に備えることにより、漁業収入の安定を図り、漁業所得を確保する。
水産多面的機能発揮対策事業	干潟等の保全活動による資源量の増大や魚食普及や食育活動による水産物の消費拡大を図り、漁

	業所得の向上に繋げる。
漁業人材育成総合支援事業	意欲ある若者が漁業に新規参入し、継続して漁業に携わるための環境を整えるとともに漁業の高付加価値化を担う人材を確保・育成する。
水産基盤整備事業	安全・安心な水産物の品質確保や流通機能の強化に資する高度衛生管理型荷さばき所、岸壁等の整備。
漁港施設機能強化事業	漁港施設の耐震化工事を実施することで、漁業用施設や漁船・漁具等漁家資産の保全を図る。
水産物供給基盤機能保全事業	漁港施設の長寿命化計画に基づき漁港施設の補修を行うことで漁家資産の保全を図る。
漁港施設機能増進事業	漁港利用者や生産者の就労環境の改善、安全性の向上及び漁港施設の有効活用など漁港機能の増進を図る。
水産業強化支援事業	共同利用施設等の整備による作業性の効率化 大型ノリ自動乾燥機の整備を行い、漁業経営体質を強化し、漁業コストの削減及び漁業所得の向上を図る
海岸堤防等老朽化対策事業	海岸保全施設の老朽化対策を計画的に推進することで漁家及び背後地住民の生命・財産を守る。
維持浚渫	漁港泊地の浚渫により、作業性の効率化を図る。